

【戸塚区】令和 2 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

| | |
|------------|--|
| 開催日時 | 令和 2 年 2 月 5 日 13 時 55 分 ～ 16 時 05 分 |
| 場 所 | 戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室 |
| 出席者 | <p>【座 長】坂本勝司議員</p> <p>【議 員：5 名】鈴木太郎議員、岩崎ひろし議員、中島光徳議員、山浦英太議員、伏見幸枝議員</p> <p>【戸塚区：23 名】吉泉英紀区長、鈴木裕子副区長、里見正宏福祉保健センター長、内田沢子福祉保健センター担当部長、中島高志土木事務所長、佐藤重義戸塚消防署長 ほか関係職員</p> |
| 議 題 | 令和 2 年度個性ある区づくり推進費戸塚区予算案 |
| 発言の 要 旨 | <p>岩崎議員：区提案反映制度に、戸塚区から積極的に提案しているが、戸塚駅勢圏における持続可能な交通ネットワークの構築は、区の事業計画のどこに反映されているのか。局予算の規模はどのくらいか。</p> <p>米満区政推進課長：戸塚駅勢圏における持続可能な交通ネットワークの構築については、別途予算含め局から説明する。</p> <p>岩崎議員：戸塚駅周辺における浸水対策の推進についてはどうか。</p> <p>米満区政推進課長：今後の中長期的な浸水対策を検討するとともに、短期的対策として、マンホール蓋の内水氾濫が起こりにくいものへの差し替えを進める。また、昨今の常軌を逸する雨量の台風・大雨に対して、自助・共助として適切に避難してもらう案内をいかに適切にするかということについても検討していくと聞いている。</p> <p>岩崎議員：戸塚駅東口デッキの階段及び手すり清掃に係る予算措置があ</p> |

るが、現在行っている大規模工事等との関係は。

天野土木事務所副所長：現在、横浜市では東口デッキにある階段と手すりの清掃を行っていないため、道路局に清掃の実施を提案したもの。

山浦議員：5ページ「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業」について、台風災害で家をなくした場合どこで支援を相談できるのかわかりづらいという声がある。区はそういった状況の時にしかるべき窓口を設けているのか、またどのように周知しているのか。

卯都木総務課長：災害で被害に遭われた方々に対する支援措置は様々あるが、その前提に罹災証明というのがある。罹災証明は消防署が受付窓口になっているが、様々なメニューがある中でどこに行ったらいいのかわからないという声をたくさん頂戴している。消防署では、どういうメニューがあって、どこに相談に行けばよいかという内容のペーパーを配布している。

山浦議員：災害に遭われた方が障害者というケースもある。足が悪い中、市役所、消防局や区役所に行くのは大変である。できるだけわかりやすい案内が必要なので、強化してほしい。

4ページの「とつか地域づくり支援事業」に関連で確認するが、道路上で寝たり、荷物を置いている場合、区はどのような対応をしているのか。

新井生活支援課長：通常、路上で寝たり生活している状況を確認した場合、生活支援課で声掛けをして、落ち着いて生活できる居場所等について紹介している。中々それに応じてもらえないことも多く、粘り強く継続して対応している。

山浦議員：生死に関わるケースもあるので、そういうことも踏まえて柔軟に対応してほしい。

11ページ「旧東海道魅力アップ推進事業」について、道路拡幅工事などで今まであった石碑がなくなったり、端のほうに追いやられて見

えなくなっていると聞いた。道路局にこのようなことを調べてサインを新しく作るよう要望した。区も独自に調査し、局にあげてほしい。

米満区政推進課長：旧東海道について、戸塚の貴重な歴史的資源なので多くの方に知ってほしいと思っている。区制 80 周年関連事業として令和元年度及び令和 2 年度の 2 か年にわたる再整備事業を計画しているが、地域の歴史団体の方とまち歩きをしながら整備箇所を検討してきたので、その情報も局と共有して進めていく。

中島議員：5 ページ「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業」について、マンション出前講座は具体的にどのような講座か。

卯都木総務課長：これまで集合型のマンション防災講座をやっているが、こちらに参加していないマンションに関しては、基礎的な内容になってくるだろう。今年度から実施している地域防災アドバイザー事業でも、マンションの管理組合からの参加とすることとしており、状況に応じて講座の内容をレベルアップし、継続的な取り組みにつながるような内容にしていきたい。

中島議員：マンションと地域防災拠点との連携訓練をしっかりとやってほしい。今回、予算研究会でも出ていたが、マンションの中で備蓄庫を設けたいときに助成金を出すといったメニューがあった。防災に関しては、公助だけでは難しく、自助・共助が重要になるので、マンション防災出前講座では、そうした情報を提供し自助・共助を促進するなど、マンション防災の強化に、具体的に手を打ってほしい。

10 ページ「活気あるとつか商店街支援事業」について、商店街の方々から戸塚駅の駅前のミストの要望がある。夏場には、駅前及びデッキが暑くなるので、経済局の事業を利用して実現してほしい。

岩崎地域振興課長：今年度から経済局が商店街のミスト装置設置事業を始め、6 月末までに申請するとミスト設置費の補助及び水道代が全額減免される事業である。新年度は早いうちから商店街と連携し申請期限の前にどこにつけるか、どのくらいの容量にするか詰めて、期限に

間に合うように経済局に繋いでいく。

中島議員：戸塚区の商店街は横浜市で唯一増加傾向にあり、他の区からも盛り上がっている区だと言われている。SDGsの商店街のモデルになりたいという商店街もあり、独自にやり始めているので、そうした取組みを応援してほしい。

また、経済局では、商店街が社会課題の解決に取り組むことに対し様々な補助メニューを作っている。区の事業は55万円しかないが、経済局のメニューをフル活用して、商店街を盛り上げてほしい。それをコーディネートするのが区役所の役割である。

岩崎地域振興課長：1つの区でアイデアを出すと経済局はすぐに組み入れて翌年度予算等に反映する。令和2年度予算の商業振興費は2億5,362万円だが、ほとんどが補助事業。SDGsや防災などにも関係するような商店街社会課題チャレンジモデル事業という新たなメニューもある。例えば、プラスチックごみの削減や子育て世代の支援など地域や社会の課題を商業活動の中で解決していくことを目指す商店街の取組みを支援するもの。区内の商店街は元気でいろんなことに前向きに取り組んでいる。局予算を使った方が金額的にも補助率が高い支援が得られるので、紹介しながら商店街と一緒にやっていきたい。

中島議員：戸塚の商店街が経済局のメニューをどれだけ使ったかわかれば教えてほしい。

岩崎地域振興課長：今年度1月末までだが、区内商店街が経済局の補助を使ったのは30件、区の補助を使ったのは2件である。一番多いのが22件の商店街活性化イベント事業であり、ハロウィンのスタンプラリー、フリーマーケット、夏市や桜まつりなど商店街が地域の皆様と一緒にやるイベントへの補助である。単会だと上限25万円、複数の商店街が共同で行うと上限が50万円である。その他にも商店街のインバウンド対策支援事業としてラグビーワールドカップの1商店街1国応援運動として東戸塚商店街がオーストラリアを応援して約20万円もらうなど、合計584万円ほど経済局からの補助金を使っている。

中島議員：来年度もそれ以上の企画をコーディネートしてほしい。

前回の市議員会議で、宿場町だからこそ地域にある歴史的なものを残していく仕組みをつくってほしいと要望したが、進んでいるか。

長谷川読書活動推進担当課長：図書館と区政推進課で詰めている段階である。地域に残っている歴史的資料や写真の収集、活用をどういう方法がいいか詰めて、来年度は試行的にやっていきたいと考えている。

中島議員：図書館の役割として、そういうものを保管していく、歴史を残していくことを果たしてほしい。家が壊され、貴重なものがごみとして出されず、少しでも残していける取り組みをお願いしたい。

11 ページ「区内女子スポーツ普及・応援事業」について、女子スポーツの中でサッカー、ソフトボールやラグビーがそろっているところは日本中探してもない。来年度新しい取り組みはあるのか。

岩崎地域振興課長：新しいメニューはなく、これまでと同様、応援の企画、体験教室、地域への紹介が主流になっている。ただ、プロ選手ではないので勤務時間により出向いてもらうのが中々厳しい。女子サッカーのプロ化も想定されているが、それには認知されたチームということが一番大きい。来年度はチームを知ってもらう告知に重点を置き、地区センター等区役所以外でもチームの紹介や試合の日程をお知らせし、足を運んでもらえるようにしたい。

中島議員：横浜FCは、今期、事務所が東戸塚のビルの中に来た。J1にも上がって盛り上がってきている。こうした機もとらえて、スポーツというカテゴリ全体で、地域を盛り上げてほしい。

吉泉区長：これまでも、横浜FCとは様々な連携をしている。例えば子供たちとの交流とか、大人も含めた区民の皆さんとの交流ということでご尽力をいただいている。特に今年はオリパラというところでもあるし、また1部リーグの昇格ということから、そういった機会を捉えていきたい。西谷から移転という、ホームタウン戸塚というタイミングもあるので、この機会を捉えながら、区民の皆さんの心にどれだけ

しみ渡らせるか、そして、それを見ながら、区民の皆さんが私もやってみようかなという心を持っていただけるような取り組みがとても大事だと思う。これから様々な団体の皆さんとご相談をしながら、具体的に取り組みを進めていく。

中島議員：横浜FCでは、戸塚区民を盛り上げようと戸塚区民デーをやってくれている。横浜FCの事業の位置づけだが、区も一緒になって盛り上げてほしい。女子スポーツ事業を拡大し、スポーツというカテゴリーで戸塚区の一つの事業にしてもいいと思う。検討してほしい。

伏見議員：8ページ「子育て応援事業」について、前年から少し予算が減っているが、どういったところで予算が減ったのか教えてほしい。

飯田こども家庭支援課長：大きいところでは、今年度、地域子育て拠点で行うお世話体験会のために、沐浴人形や妊婦体験ジャケット等を購入したが、それが予算上の減になっている。あとは、まっぴいという子育てガイドブックについて、アプリで情報伝達する仕組みが1月30日からできたので、ボリュームを少なくし、作成費が減になっているのが主なものである。

伏見議員：お世話体験会は、もともと区役所で行っていた両親教室を子育て支援拠点で実施するという形になったが、全区この形なのか。

飯田こども家庭支援課長：戸塚区では平日月1回、それに加えて土曜日開催している。土曜日にやる両親教室の主な目的としては、夫婦で継続して子育ての取り組みの意識を高めるもので、父親の育児参加を促すことである。土曜日に両親教室を実施している区は少ない。

一方、今、妊娠期から子供期までの子育て支援を充実していく中で、区の専門職、保健師の支援を特に必要とする妊婦の方々が増えており、そちらに専門的な対応をしなければいけない。地域子育て拠点を妊娠期から使っていただきたく、お世話体験会の土曜日のものを子育て拠点に移したほうが、より地域に近い形で支援ができることにつながるということで、拠点でやる形に変えた。

伏見議員：平日はそのまま区役所で両親教室は行っているのか。

飯田こども家庭支援課長：やっている。

伏見議員：区役所では、会場も広く、土曜日でもかなりの人数の方が参加していた。拠点だと1回の受け入れ人数で制限がかかり、どのようにその人数をカバーしていくか、課題である。プレパパ・プレママが、子供が生まれる前から子供たちに触れ合い、先輩ママ・パパからお話を聞くのは、いい機会であるのでこのまま続けてほしい。

児童虐待の予防として、子供が生まれる前から支援することが大事である。児童虐待をしてしまう側に母親がだんだんなっていき、負の連鎖が回っている中で、地域や皆様からご支援いただいても、なかなか子育てに対して前向きになれないこともある。子供が生まれる前からいろいろな課題があることをお母さんお父さんが知ることで、何かあったらここに行けばいい、また地域とつないでもらえる経験になるので、しっかりと支援してほしい。

逆に拠点の方々が表に出る機会等が多くなると、人手不足となり、拠点のほうで指定管理者である側が補填をしなければならないが、スタッフが出前で行く場合の人件費予算はつけられないのか。

飯田こども家庭支援課長：人件費はなかなかつけづらい。局予算なので、区の予算でつけることは難しい。定期的に連絡会を設けているので、その場で話し合い、やり方を工夫しながらやっていきたい。

伏見議員：拠点をつくるにあたってホームページを必ず開設しなければならないが、子育て支援をされる方々には、ホームページをつくるのが得意な方はなかなかいない。戸塚ではホームページがすごく充実しているが、それが難しいという区も少なくないので、戸塚から発信してアイデア等を広げてほしい。

飯田こども家庭支援課長：戸塚区では、とつとの芽、民間の団体やNPOの方々と連携させていただいており、ホームページとかの技術的なスキルの高い方がいらっしゃる。相談・協力しながら進めていきたい。

伏見議員：11 ページ「3R 夢プランの推進事業」について、家庭のベランダ等で気軽に利用できる生ごみ処理器のモニター事業だが、これは来年度も、小学生の夏休みの課題といった形で使用するのか。

澤田資源化推進担当課長：生ごみ処理器モニター事業は、毎年春先から募集をかけて、今年度は全4回、122名の方に参加いただいた。夏場にする説明会は親子開催である。特に小学生向けという開催はしていないが、7月は主に親子の方が参加し、生ごみ処理器の利用、食品ロスの削減の取組み等にご理解をいただいた。次年度も引き続き実施する。

伏見議員：地道に進めてほしい。私たちが料理をする中で小さな生ごみ等はどうしても出るので、処理器があれば少しでもごみを減らして、堆肥にできる。昔ながらのこういったやり方を進めてほしい。

鈴木議員：今年度は80周年があったが、一過性のものだったらやらなくていいという話をしてきたが、やってどうだったのかという話がない。80周年で戸塚区は何をやったのか。

卯都木総務課長：実行委員会を中心に様々な催しを行い、たこ揚げ大会1300人、こどもフェスタ2600人、スタンプラリー1万5000人、最後の区民まつりは至上最高の3万5000人にご参加いただいた。今回は80周年を各地域の皆さんに広めていただくため、後援名義やマークの使用など手間を少なくし、どんどん使ってくださいというやり方をし、各地域でやっていただけたと思っている。多くの皆さんにこの戸塚区制80周年をお知らせできたのではないかと思う。

私どもがまちづくりを進めていく上で考えていくことの一つとして、自分の住んでいる町が好きである方が皆さん幸せだと思っている。好きになるためには、知っていただかなければならない。今回も多くの方々に、80周年をきっかけに戸塚という町全体に目を向けていただくことができ、この戸塚の町をより好きになる、きっかけづくりができたのではないかと考えている。

鈴木議員：10年後に向けて何か考えておくことが今のタイミングでやる

べきこと。年度内に庁内できちんと議論し、整理するべき。

9 ページ「防犯力強化事業」について、電話機に付ける振り込め詐欺防止啓発物品の予算があるが、民間から協賛を募集しているのか。

岩崎地域振興課長：区内では高齢者世帯が多く約 7000 世帯あるが、区役所が全てにお配りするわけにはいかないので、今、防犯協会を通じていろいろなところに声かけをしている。区民、業界、様々な方に協力をいただいて、みんなでこの問題を真剣に考えていこうと、協賛も募りながら防犯協会、警察とも一緒に進めている。

鈴木議員：区役所と警察との連携や情報共有などはスムーズに行われているのか。

岩崎地域振興課長：地域振興課に限って言いますと、警察の交通課と交通安全協会も含め年に 4 回の交通安全キャンペーン、いろいろなグッズの調整や母の会等を通じたキャンペーンなども一緒に行っている。スクールゾーン協議会などで信号機の設置や横断歩道の設置要望があるが、警察の所轄も多く予算確保に苦慮し、地域の要望に応えられていないが、スクールゾーンでいえば、地域振興課や土木事務所が予算立てをできるところはほぼ行っている。一方、防犯では、今は警察署長も地域と一緒に来てくれるようになってきている。区連会、各連合、自治会町内会などで振り込め詐欺や現在のいろいろな犯罪被害の状況などをお話いただいたりして、連携がとれており、今は区役所と警察の関係は非常にいいと思う。

鈴木議員：区議員団会議には警察にも来てもらうようにしたほうがいいのではないか。区によっては区議員団会議に警察が来ているところがある。道路交通に関する事など、関係機関が連携して継続的に取り組むため、こういう場が必要ではないか。

5 ページ「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業について、マンションと地域防災拠点との関係が重要である。地域防災拠点は、避難所であると同時に物資と情報の供給拠点になる。マンションは耐震性に問題がなければ基本的に崩れることがなく、拠点に

避難することはあまり想定されていない。横浜市の防災計画では、仮に拠点に避難しなくても、ここにこれだけの人がありますというのを届け入れたら物資と情報の提供が受けられるという仕掛けになっている。マンション防災出前講座では、こうした届け入れを促すことになると思うが、ばらばらに届け入れをやると、拠点運営に支障をきたす。届け入れのフォーマットを統一することを検討してはどうか。

卯都木総務課長：今年度、地域防災拠点の訓練がある中で、ごくわずかだが、集合住宅と地域防災拠点との間で情報のやりとりの訓練をすることができた。無線のみを使ったところもあれば、イメージをして模擬的にやったところもある。どういう情報が必要なのかについては、統一フォーマットがあるほうがいいのではないかとアドバイスをいただいて考えており、今後つくっていければと思う。

岩崎議員：5ページの「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業について、今までのものとは違う防災・区民マップ等をつくろうということのようだが、去年の初めに県が行った境川水系の被害想定の見直しを反映されたものが作成されるということでもいいか。

卯都木総務課長：境川水系の洪水ハザードマップについては今、総務局でつくっており、2月の下旬から3月にかけて、浸水が想定されるエリア内の各家庭と事業所が大体3万3000くらいあるので、総務局予算で印刷して配るということになっている。また、余部はこちらでももらうことになっており、ご希望の方にはお配りするという形になっている。防災・区民マップは、浸水・洪水の内容などを盛り込むのではなく、今の区民マップに時点修正等を加えて増刷するもので、新たなものではない。

岩崎議員：戸塚駅周辺はハザードマップで浸水区域になっている地域で、避難所は倉田側も戸塚町側も小学校で山の上になる。高齢者はそこまで避難できないので、去年の台風19号の時に、区役所がすぐに3階を開いたので、皆さん避難できた。区役所はもともと避難所になっていないが、地の利からいっても、区役所の役割からいっても、避難

所にした方がいいと思う。区役所は特に風水害の避難所として実績もあるし、位置づけたらどうか。

卯都木総務課長：区役所は、洪水時に浸水が想定される区域である。今回の19号の時も、避難所として開けることは、実は一番悩んだところである。区役所に来てくださいと言っているときに水面があふれたらどうするのかというようなことである。今回の台風19号では、横浜市全体としても非常に大きな被害があり、またいろいろな教訓があった。横浜市全体として風水害対策の見直しを進めており、次の出水期までにまとめたいというのが総務局の考えと聞いている。風水害の際の緊急の避難所については、震災時の地域防災拠点とは異なり、避難所の運営を地域の皆様が行う仕組みになっていないので、想定される被害、降雨量、避難所を開設する区役所職員のマンパワーなども考慮しなければならないと思っている。どこを避難所として開設するのか、都度検討していきたい。

岩崎議員：13ページ「区民に身近な広聴・効率的で分かりやすい広報事業」について、市の情報が市民に伝わっていない。行政は一生懸命、市民に知らせようとはしているが、受け手の側でなかなかそれが受けとめられていない。情報が届いていない部分の比重が非常に大きいので、これからの課題として考えておいてもらいたい。

米満区政推進課長：情報をどれだけ区民の皆様に伝えられているかというのは、年々難しくなっているテーマである。今回の区民意識調査では、広報よこはまを閲覧いただけている方がメディアの中では一番多いが、それでも65%である。続くのが、自治会町内会の回覧板が6割で、その次となると町内会の掲示板で、2割台まで落ち、その次がタウンニュース等のコミュニティ誌となっている。ツイッターのフォロワーが今年の台風のとくに一気に700人くらい増えたが、メディアの特徴も考えながら検討いきたい。

山浦議員：戸塚駅周辺のバリアフリー化も含めた事業計画だが、東口側の屋根が老朽化して雨漏りしている、屋根自体が少なく皆さん濡れて

いるという声がある。屋根の復旧や新しく設置をしていただきたい。

天野土木事務所副所長：バスの乗り場の屋根は、バス事業者でつけているので、老朽化について事業者に伝えたい。

坂本座長：12 ページ「とつか環境未来エコライフ事業」について、SDGs の関係で下川町と交流企画があるが、これは例年行われている交流と違う交流なのか。

米満区政推進課長：例年と同様の内容である。なお、今年度は例年と異なり、下川町へ職員が訪問した。

坂本座長：下川町との交流について、区民まつりも含めていろいろなところで発信をしている中で、区役所の職員が下川町自体に訪れたことがないので説得力がない。職員間の積極的な交流を行ってほしい。

4 ページ「戸塚区民まつり事業」の桜まつりについては、トイレ不足を指摘してきた。戸塚の花である桜なので、区づくり推進費の中で行ってもいいと思うが、トイレの考え方を教えてほしい。

岩崎地域振興課長：桜まつりは主催が桜まつり実行委員会となっており、観光協会が中心であるが、今は主たる財源等がない状態で行われている。桜まつりは1日だけ、踊り、音楽、セレモニーがあるだけのものだが、実際には桜が咲いている期間中ずっとたくさんの人がいらっしゃっている。トイレは周辺にある地区センター、公会堂、商業施設や駅等のトイレをご利用いただいている。仮設のトイレを河川区域の中に置けないので、適切な設置場所がないというのが現状である。

坂本座長：衛生面からも課題であるので、いろいろな団体も含め、トイレ対策を考えてほしい。

2 ページ「スポーツ・レクリエーション振興事業」について、横浜FCが独自に旗をつくって、商店街に配っていた。こうしたことを区役所がやってもいいと思う。区役所は駅に面していて一等地。デジタルサイネージなどを活用すれば災害時の情報発信にも使えていいと思

| | |
|------------|---|
| | <p>うがどうか。</p> <p>岩崎地域振興課長：横浜FCがJ1に上がって、積極的になっており、戸塚区内が横浜FC一色になるようなことをやりたいと言っている。基本はチームのPRになるので、行政で特定のチームの応援することは難しいが、そういうコンテンツをもらっているいろいろなところでPRをしていく、例えば選手や試合の告知、特に区民デーなども含めているいろいろなところで応援はしていきたい。令和2年度はオリンピックもあるので、令和3年度に向けてスポーツという一つの大きなくくりとして考えていくのも一つの方法と思う。</p> <p>坂本座長：デジタルサイネージは、非常にいい広告媒体である。区役所は土地柄もあり、絶好の場所なので検討してほしい。</p> <p>中島議員：12ページ「とつか環境未来エコライフ事業」について、下川町には、下川町のSDGsを学んでいる下川町SDGsアンバサダーという人がいる。そのアンバサダーと接触をして、何かできることがあるのではないかと。下川町は、SDGsでは日本中で有名な町になっていて、JALや吉本興業と組んでいろいろなことをやっている。また、SDGsマップといってお店などのSDGsの取組を地図に表したものもつくっている。下川町とうまく連携することによって、戸塚のSDGsの推進が見えてくるのではないかと。</p> <p>また、横浜FCとのコラボで町を盛り上げるとしたら、例えば振り込め詐欺のキャンペーンを知名度のある選手にやらせようとか、そういう依頼を区長がするのもありだと思う。</p> |
| <p>備 考</p> | |